

つどい

第19号

発行日：令和7年8月

こんにちは！野木町交流センター「野木ホフマン館」です。

今回の「つどい第19号」でお届けするのは、概ね次のとおりです。

- 野木ホフマン館の近況と事業
- 野木町煉瓦窯のおはなしその⑬
- 自然豊かな渡良瀬遊水地その⑬

【野木ホフマン館の近況と事業】

第7回野木町煉瓦窯春フェスタを5月10日（土）・11日（日）に開催いたしました。10日は雨にかかわらず多くの方にご来場頂き、また、11日は天気にも恵まれこれまでにないほどに多くの方にご来場いただき大変ありがとうございました。煉瓦窯見学ツアー、各模擬店、レンガ粘土ワークショップ、多肉植物ワークショップ、石窯料理体験等、各コーナーとも賑わいを見せていました。バイオリン&ギターデュオ生演奏も10日は室内、11日は煉瓦窯をバックに爽やかな演奏をして頂き、多くの来場者を魅了していました。5月にはバラ、6月には紫陽花、他にも色とりどりの植物が色彩豊かに来場者を楽しませていました。ご来館お待ちしております。



野木町煉瓦窯のおはなし その⑱

野木町煉瓦窯で煉瓦を焼いていた当時、窯の中での作業は、ほとんどが人力で行われていました。そこで、人力による作業の負担を軽くするための工夫もされていました。窯の中に敷いたトロッコです。

煉瓦を焼くための燃料に使われた粉炭[ふんたん(細かい石炭)]は、ホフマン窯の2階から、1階にある焼成室(煉瓦を焼くスペース)へ投入されます。このため、粉炭はいったん2階へ運ばなければなりません。天秤棒の両端に下げたカゴのそれぞれに約30キロずつ(つまり一度に60キロ)、粉炭を入れて運び上げていたようです。これを限られた人数で、一日あたり1.5トン分繰り返しました。

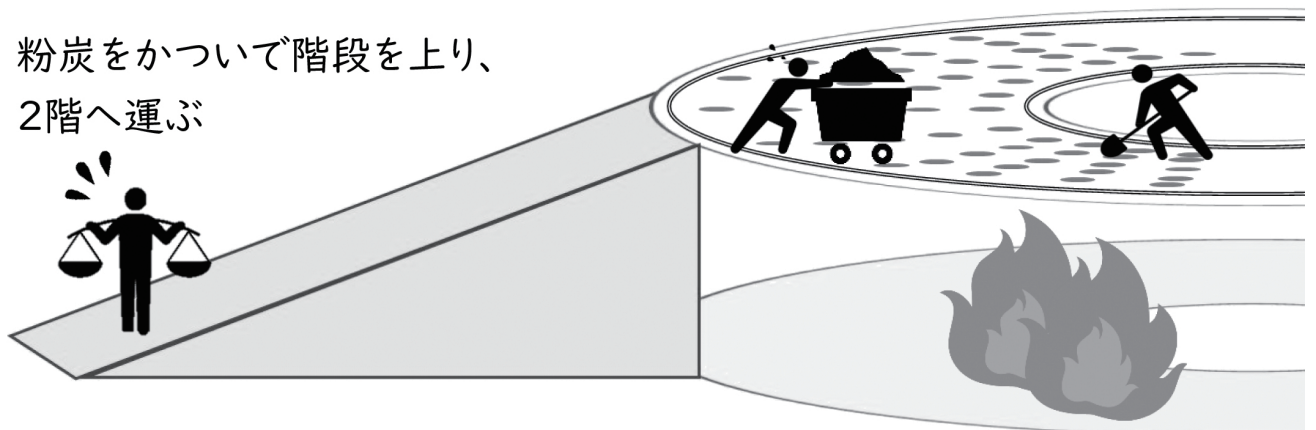
野木町煉瓦窯の2階、投炭孔(燃料を1階の焼成室に入れるための穴)が並んでいる横には、レールが敷かれています。野木町煉瓦窯で煉瓦を焼いていたころ、このレールはトロッコを乗せて動かすために使われていました。

トロッコは、燃料の運搬に使われました。煉瓦を焼くための粉炭を2階へ運ぶと、いったんトロッコに入れてから、トロッコを押して投炭孔の近くまで運び、焼成室へと投入しました。

レールは投炭孔の列の両側にそれぞれ3本ずつあります。各3本のうち、外側の2本には小さいトロッコ、真ん中の一本には大きなトロッコを乗せました。大きなトロッコは投炭孔の列をまたぐようにしてのせられていました。(つづく)

トロッコを押して
粉炭を運ぶ

粉炭をかついで階段を上り、
2階へ運ぶ



小型トロッコ →

大型トロッコ ↓



レール(各3本)



現在の野木町煉瓦窯2階。並んでいる丸いものは投炭孔の蓋

自然豊かな渡良瀬遊水地 その⑱

渡良瀬遊水地の産業

渡良瀬遊水地（谷中村）周辺の地場産業には、渡良瀬川・思川、赤麻沼や石川沼での漁業と堤内外に自生している湿地性植物を利用した製造業がありました。これらは古くから人々に豊かな自然の恵みを与えてきました。

1. 淡水漁業

明治期の漁業は、畑作や養蚕と並ぶ主要な産業でした。赤渋沼の内野村、思川流域の恵下野村、赤麻沼の赤麻村、さらに巴波川流域の部屋村、渡良瀬川流域を主な漁場とする下宮村や三鴨村のように、各村は個別の漁場を有し、鯉・鮒・鯰・鰻・鮎等に至るまで多くの川魚が獲れました。しかし、明治27年以降は足尾銅山からの鉱毒の影響により漁獲量が急減し漁業者も僅かとなりました。また、漁業は、渡良瀬川改修工事（大正7年通水）以降、赤麻沼、石川沼等が埋積されることにともない、昭和になって急速に衰退しました。

漁場及び漁業従事者

項目 漁場	村名	明治年	漁業専従者（人）				総数	漁船（艘）			採捕ノ水産
			専業		兼業			網船	雑魚船	総数	
			男	女	男	女					
思川	恵下野	20	9	—	27	—	36	8	22	30	鮎、鯉、鮒、 ヤマベ、鰻
		21	5	—	29	—	34	11	21	32	
	谷中	22	9	—	27	—	36	8	22	30	鯉、鮒、鯰、 鰻、雑魚
		23	4	—	39	—	43	12	27	39	
赤渋沼	内野	20	4	—	35	—	39	9	12	21	
		21	3	—	37	—	40	—	—	—	
	谷中	22	4	—	35	—	39	9	12	21	鯰、鰻、鮒
		23	6	—	60	—	66	8	6	14	

渡良瀬遊水地の近況

渡良瀬遊水地連携捕獲協議会の2024年度調査でイノシシの生息数が1,044頭に上ったことが分かりました。細心の注意を払いながら観察会等を実施していきたいと思います。そんな中、今年も多くのツバメが飛来しています。8月7日（木）に「ツバメのねぐら入り」の観察会を行います。昨年はあまりよく見られなかったですが、今年は壮大なねぐら入りを見たいと思います。ご参加をお待ちしています。

参考文献

「渡良瀬遊水地成立史」より
利根川上流河川事務所発行

野木町交流センター

（野木ホフマン館）

開館日：火曜日～日曜日

9：00～18：00

（国民の祝日開館、翌平日閉館）

〒329-0114

野木町大字野木3324-10

☎ 0280-33-6667